

ステージラボ高知セッション 募集要領

ステージラボは、地域の文化・芸術に携わる公立ホール・劇場等並びに地方公共団体の職員の方々を対象とした研修プログラムです。少人数のゼミ形式によるセミナー、グループ討論、ワークショップなど双方向の研修で、地域における創造的な表現活動の環境づくりに取り組む人材の育成と、相互交流の促進を目指して実施します。

■ 開催概要

日程：2026年2月24日（火）～2月27日（金）[4日間]
※公立ホール・劇場マネージャーコースは、2月24日（火）～2月26日（木）[3日間]
会場：高知市文化プラザかるぼーと（高知市九反田2-1）
開講コース：①ホール入門コース、②自主事業コース、③公立ホール・劇場マネージャーコース
定員：各コース20名程度
参加費：研修参加は無料 ※交通、宿泊、滞在中の食事はご自身で手配、費用負担いただきます。
開催体制：主催／（一財）地域創造
共催／（公財）高知市文化振興事業団、高知市文化プラザ共同企業体、高知市 後援／高知県

①ホール入門コース

コーディネーター：有門 正太郎（演出家・俳優・劇作家、有門正太郎プレゼンツ主宰）

職場から一歩離れて他のホールを覗いてみると、中にいると見えない景色や考えが湧いてきます。今回の会場となる高知市文化プラザかるぼーとで参加者の関心ごとを持ち寄り、時には周辺を歩き、時には食事し、時にはアーティストのプログラムを体験しながら、地域の課題やホールの課題、公共ホールの役割などを対話や会話を通して探求します。ホール職員になる理由や覚悟は様々違います。あなたの為の入門コースになるでしょう。

[対象となる職員の目安]

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む）および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公立ホール・劇場（開館準備のための組織を含む）において業務経験年数1年半未満（開館準備のための組織は年数不問）の方。

②自主事業コース

コーディネーター：荒井 洋文（犀の角代表・プロデューサー・舞台芸術制作者）

近年、文化芸術は福祉、医療、産業、観光、まちづくりなど他分野との結び役になるだけでなく、各領域での課題を文化芸術と一体となって解決していく道筋をつけることができると言われています。課題の山積する現代社会において、公共劇場が施設等に集客することや、文化芸術を振興することのみにとらわれず、広く地域に展開し、多様な領域と互いに協働しながら取り組んでいくような事業の可能性やその道筋を探ります。

[対象となる職員の目安]

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む）および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公立ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。

③公立ホール・劇場マネージャーコース

コーディネーター：山本 麻友美（京都芸術センター副館長・チーフプログラムディレクター）

公共ホール・劇場の管理職は、クリエイティブな現場に関わりながらも、人材確保から地域や行政の要望への対応など、多くの責務と期待を担う要職です。職場内でも、劇場の外でも、立場や世代をつなぐ橋渡しの役割を果たしています。孤独や重責を抱えつつも「地域に役立ちたい」「創造的でありたい」と願う方々と共に、視点を変え、心を軽くし、仲間と経験を共有する3日間。新たな発想と勇気を持ち帰り、現場に戻る力を養う機会にしたいと思います。

[対象となる職員の目安]

公立文化施設（ホール・劇場等）で企画・運営に携わる職員（指定管理者である民間事業者の職員も含む）および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公立ホール・劇場において管理職程度の職責を持つ方。

■ 申込方法 申込締切 2025年11月25日（火）必着

当財団ウェブサイト内「ステージラボ」ページ（<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html> ▶）から、①参加申込書、②アンケートをダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、専用フォームよりお申込みください。

※民間事業者の場合は③副申書が別途必要です。お申込み後、押印文書を下記担当までご郵送ください。



フォーム送信後すぐに、受付確認メール（自動返信）をお送りいたします。メールが届かない場合は、お申込みが完了していない可能性がございますので、お手数ですが、お電話でお問い合わせください。

【参加者の決定】アンケート内容、応募状況などを考慮のうえ（アンケート重視）、参加コースと参加の可否の調整を行い、2025年12月中をめどに、申込者あて文書によりご連絡致します。

【お問合せ】（一財）地域創造 芸術環境部 研修担当 TEL：03-5573-4183 E-mail：kensyu@jafra.or.jp

〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル9階

■コーディネーターからのメッセージ・プロフィール

①ホール入門コース

コーディネーター：有門 正太郎（演出家・俳優・劇作家、有門正太郎プレゼンツ主宰）

演出家・俳優・劇作家。1975年生、福岡県北九州市出身。倉本聰主宰「富良野塾」、泊篤志代表「飛ぶ劇場」を経て、2005年「有門正太郎プレゼンツ」を旗揚げ「笑顔になれば何でもできる」が合言葉。俳優として様々な全国ツアー公演などに参加。最近は全国各地で市民参加劇の作・演出や小中学校でもアウトリーチ活動をしている。不登校児、メンタルヘルスに支障のある方など福祉関係での作品作りも多い。2016年佐藤佐吉賞優秀主演男優賞受賞。（一財）地域創造リージョナルシアター登録派遣アーティスト。2025年キタゲキ連携アーティスト。



撮影：浅田政志

最近わくわくしていますか？この言葉は誰に問いかけるかで意味が変わります。

ホール来場者に対して、地域住民に対して、そしてあなた自身に対して。

劇場やホールの来場者はわくわくして訪れる方が多くいると思います。その一方でホールの内情は高齢化や予算削減、担い手不足に物価高騰、言い出すとキリがありません。地域住民も同じ様な不安や葛藤の中、生活してるかもしれない。地域のホールがわくわくを提供する事の重要性、必要性を会話、対話を通して模索したいと思います。その使命を果たすための最強の武器がアートであり、パートナーとなるのがアーティストです。様々な体験を4日間過ごしていただき、あなた自身の変化や気づきを沢山持ち帰っていただけるプログラムにしたいと思います。公共ホールの役割や昨今のホール事業の変化なども押さえつつ、街歩きやグループ活動など体験を中心に進めていきます。そして最後は新しい事業案を考えてみましょう。さあ、わくわくしてきましたか？高知市文化プラザかるぽーとで待っています。

②自主事業コース

コーディネーター：荒井 洋文（犀の角代表・プロデューサー・舞台芸術制作者）

上田市出身。プロデューサー、演劇制作者。静岡県舞台芸術センター制作部に所属後、上田市で文化事業集団「シアター&アーツうえだ」を発足。演劇を軸とした文化芸術活動のプロデュースを行っている。2016年、上田市中心商店街の空き店舗をリノベーションし、劇場、カフェ、ゲストハウス等を備えた民営文化施設「犀の角」をオープン。様々な表現活動や地域住民・アーティストの交流の場として運営している。近年はアーティスト・イン・レジデンスに重点を置いた事業や劇場の役割の捉え直した居場所作りなどの事業を展開。上田市交流文化芸術センター運営協議会委員。令和5年度(第74回)芸術選奨芸術振興部門において文部科学大臣賞受賞。



撮影：直井保彦

こんにちは。文化芸術が広く地域とつながることが求められている昨今、みなさんもそれぞれの現場で格闘されていることと思います。ひとえに地域といっても様々なレイヤーがあり、ただでさえ忙しい日々の中で、どこからどう手をつけたらよいものか、悩ましい面もありますよね。私は公共劇場の制作部に所属したのち、現在は長野県上田市の商店街の中で民間劇場の運営に携わっています。来訪するお客さんや地域のみなさん、またアーティストたちと関わる中で、劇場がどうあるべきかを考え、模索しているひとりです。そんな日々の中で、「文化芸術とは一体誰のものなのか？」という問いに向き合う必要性を感じています。変化する時代の中で、文化芸術の受け手も送り手も同様に変化しているように思います。社会課題が山積する状況において、劇場と地域の間で、いま私たちはどんなつながりを生み出すことができ、何をなすことができるのでしょうか？現場の声を聞きつつ、様々な事例を学びながら、劇場と地域の可能性を探っていくような4日間にできたらと思っています。みなさんのご参加をお待ちしています。

③公立ホール・劇場マネージャーコース

コーディネーター：山本 麻友美（京都芸術センター副館長・チーフプログラムディレクター）

京都芸術センター開館当初より、若手芸術家の育成・支援を目的とした多様な事業に携わり、ジャンルを横断する自主事業の企画・運営に取り組む。京都芸術センターチーフプログラムディレクター（2016-21）、コロナ禍に開設された京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）ディレクター（2020-21）、新設された京都市文化政策コーディネーター（2022-2025）等を経て現職。KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭実行委員長、信州アーツカウンシルアドバイザーボード委員、札幌市文化芸術創造活動支援事業等評価検証委員会委員、高槻市文化振興審議会委員など。自主的な研究会「新しい文化政策プロジェクト」メンバー。個人の活動として KYOTO INTERCHANGE を展開している。



公共ホール・劇場の管理職は、クリエイティブな現場に関わりながらも、人材確保から地域や行政の要望への対応まで、多くの責務と期待を担う要職です。職場内でも、劇場の外でも、立場や世代をつなぐ橋渡しの役割を果たしています。孤独や重責を抱えつつも「地域に役立ちたい」「創造的でありたい」と願う方は多いのではないのでしょうか。このコースでは、日常の重圧を少し脇に置き、視点を変えるワークショップやセミナーを通じて、自分の立場や現場を新たに見つめ直す機会を作りたいと思います。問題ばかりに見える現場も、見方を変えれば可能性や協働の余地が見えてきます。仲間と経験を共有する3日間を通して、心を軽くし、新たな発想や希望を感じてほしい。そしてそれらを持ち帰り、現場に戻る力へとつなげていきたいと考えています。